

# 埋文

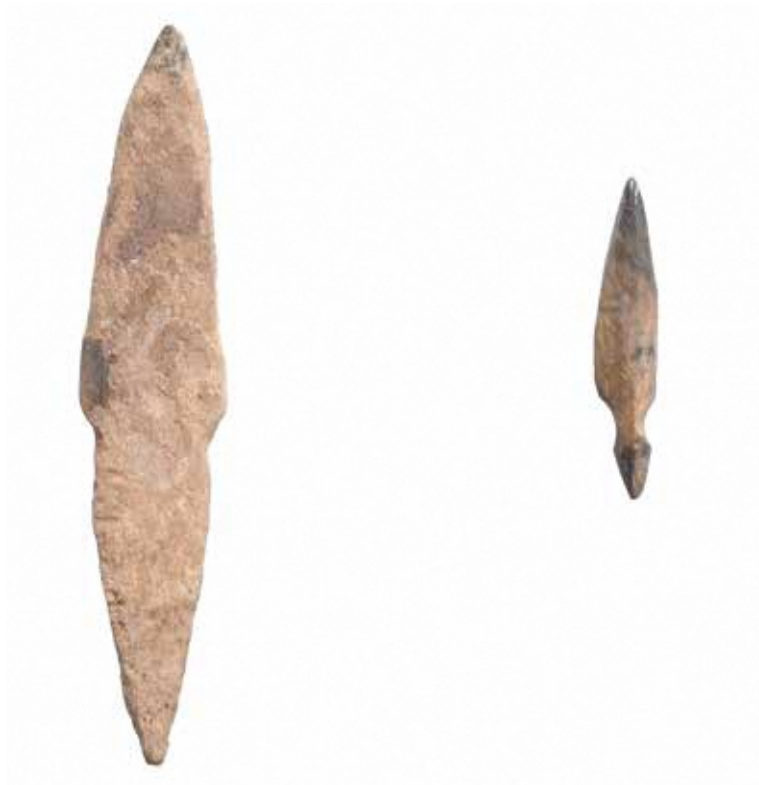
## とやま

Toyama Prefectural Center for Archaeological Operations

2022.9.30

VOL.

160



小竹貝塚出土品（富山市呉羽）  
《骨角器（鏃）》

動物（哺乳類）の骨を研磨してつくられた矢じり（鏃）です。魚を獲る際に使われたと考えられています。縄文時代までの矢じりは石をはじめ、動物の角や骨、歯などで作られていましたが、弥生時代になると急速に鉄製に変わっていきました。

とっておき埋文講座 ● 「チャレンジとやまヒストリー 2022」

● 考古学少年団

埋文あらかると ● 博物館実習・14歳の挑戦

Center Flash ● 特別展「金属から見る富山の歴史 ～こがね・しろがね・あかがね・くろがね・あおがね～」

古写真発掘！ ● ニツ塚遺跡（立山町指定史跡）立山町ニツ塚

富山県埋蔵文化財センター

# チャレンジとやまヒストリー2022

## とっておき埋文講座①



### はじめに

新たな体験活動を取り入れてバージョンアップした「チャレンジとやまヒストリー」も今年で2年目となりました。小学生の夏休みに合わせ、「ワクワク体験教室」「こども考古学講座」「まいぶん研究室」の3本立てで様々な活動を行いました。

本事業は、埋蔵文化財に関する様々な体験活動を通して、考古学や文化財への関心を高めることを目的としています。また、子供たちが夏休みに取り組む自由研究の一助になっています。



### ワクワク体験教室

県内の小学4～6年生とその保護者を対象として行いました。昨年度より教室の数を1つ増やし、全6教室26コースで開催しました。県内全域から多くのご応募をいただき、うれしい気持ちを抱いたと同時に、子供たちの期待に添えるような活動になるように努める決意をしました。

各教室の活動内容を紹介します。子供たちが生き生きと活動する姿が多く見られました。

#### ○刀鍛冶の体験をしよう (ペーパーナイフ)



「鍛冶」とは、鉄を鍛錬して刀や鍬などの製品を作ることです。

800℃近くまで熱した赤く輝く五寸釘に歓声があがりました。「鉄は熱いうちに打て」の言葉どおり、熱しては叩き、熱しては叩きを繰り返す、初めに刃を作ります。次に、形づくられた熱い釘を一気に水に入れて冷やす「焼き入れ」を行うことで、強度を高めます。最後に、砥石で刃を研いで刃先を鋭くします。

作ったペーパーナイフの試し切りをすると、切れ味のよさに驚きの声が上がりました。

#### ○古代の鏡の鑄造を体験しよう (錫鏡)



「鑄造」とは、溶かした金属を型に流して型と同じ物をつくる技法です。

初めに、型造りです。鑄物砂を押し込む作業はかなりの力作業です。次に、溶かした錫を型に流し込み、冷やして固めます。最後に、鏡の表面を砥石や耐水ペーパーで磨き、仕上げます。ざらざらだった面が少しずつ輝き出しました。建物の壁に日光を反射させることができ、子供たちは大喜びでした。

#### ○古代のアジロ編み・ 漆塗りを体験しよう (コースター)



「アジロ(網代)」とは、ツルやシダなどの植物、サクラやヒノキの樹皮を細く裂いた素材で作った編み物です。

当センターでは、植物素材の代わりにクラフトテープを使います。初めに、縦に並べたテープに横から別のテープを差し入れ、縦のテープを超えたり潜ったりしながら編みます。次に、中心に詰めて編み目をそろえます。最後に、上下左右に余ったテープを折り返して編み込んだら完成です。

仕上げに漆塗りをすることで、頑丈で光沢のあるすてきなコースターができあがりました。

#### ○染物を体験しよう (藍染エコバッグ)



「染色」のうち、歴史的な技法である「藍染」について学び、エコバッグを染色しました。

初めに、エコバッグにビー玉や洗濯ばさみ、輪ゴムなどを使って模様付けをします。次に、それを藍液に漬け込んで染色します。最後に、藍の青色が出なくなるまで、水で何度もすすぎます。

模様付けしたところには染液が染み込まないために、藍の鮮やかな色の中に白抜きのきれいな模様が浮かび上がりました。

#### ○グルミの垂飾づくりを体験しよう (グルミのペンダント)



今年度から新たに始まった体験コースです。縄文人とほぼ同じ方法でクルミの殻を割ったり、削ったりしてペンダントを完成させます。

初めに、クルミの殻割りに挑戦しました。叩き石できれいに二つに割ることに大苦戦した様子でした。次に、砥石で横断面を研ぎました。徐々にきれいな断面が現れ、歓声が上がりました。最後に、できあがったペンダントに漆を塗りました。鮮やかな光沢が出て、すてきなペンダントに仕上がりました。

### ○大型まが玉づくりを体験しよう (滑石製大型まが玉)



まが玉づくりは当センターの看板体験メニューの一つとして行っていますが、この教室では通常体験で使う石の2倍サイズのものを使います。

使用する石のサイズが大きい分、時間も労力も倍かかりますが、できたときの喜びもひとしおです。また作りたくなられましたら、ぜひ通常体験でのご参加お待ちしております。

### こども考古学講座



講義では、埋蔵文化財について学んだ後、県内にはどんな埋蔵文化財があるのか、発掘調査はどのように行われるのかなどについて理解を深めました。

館内見学では、初めて見る収蔵庫の広さに驚き、そこに保管されている遺物の数の多さに圧倒された様子でした。

出土品に触れる体験活動では、本物の土器や石器などのつくりや文様、使い

方を理解し、実際に手に取って観察することで、先人のくらしや知恵について学びました。

これまであまり馴染みのなかった「考古学」という学問に慣れ親しみ、興味・関心をもつことができました。

### まいぶん研究室

当センターでは、毎年夏休みに来館する小学生やその家族を対象に「まいぶん研究室」を開設しています。今年度も、考古学への関心を高めるとともに、埋蔵文化財について理解を深められるようなコーナーを設置しました。各コーナーの内容をいくつか紹介します。

### ○「タッチ・ザ・DOKI」と 遺跡地図閲覧コーナー



市町村・校区別の遺跡地図とふれる標本箱「タッチ・ザ・DOKI」を置きました。自分が住んでいる市町村にある遺跡と、そこから出土している土器について自由に調べられるコーナーです。遺跡が身近にあり、土器が出土していることを知ること、考古学への親近感がわくようになりました。また、興味をもった子供たちがすぐに調べられるように、関連の資料を掲示しました。

### ○石臼体験コーナー



ヨモギの葉をすり潰し、もぐさを作る体験コーナーです。体験した子供たちは、重い石を回すと粉状になって落ちてくるヨモギの葉に驚くとともに、ヨモギ特有の香りを楽しみました。

### ○叩き石体験コーナー



ドングリを割って粉にする体験コーナーです。石皿の上のくぼみにドングリをセットして叩き割った後、実を取り出してすり石で粉状にします。石皿は縄文人が使用していた本物で、遠い昔の縄文人に思いを馳せながら体験することができました。

### ○夏休みの自由研究 —縄文土器の接合に挑戦!—



2種類の縄文土器の土器パズルを用い、完成にかかった時間の違いを比べるとともに、その理由を考察できるようなワークシートを作成しました。それを夏休みの宿題に生かしてほしいというのがねらいです。ピース数はもちろんですが、土器の形の変化が大きかったり、文様が複雑だったりすると早く組み立てられることに気付けるかどうかが鍵です。当センターの職員が実践した記入例を掲示し、参考にしてもらえました。

### 終わりに

今年度も多くの方にご来館いただき、ありがとうございました。また、ワクワク体験教室のアンケートでは、「親子で物づくりをすることで、よい思い出になりました」「展示の説明を専門家にしてもらおうと、おもしろさが倍増しました」など、うれしいお言葉をたくさんいただきました。今後も、子供たちに考古学に慣れ親しんでもらえる活動の企画・運営に努めていきます。(松嶋 隆徳)

# 考古学少年団

## とっておき埋文講座②

### はじめに

富山県埋蔵文化財センターでは、令和3年度に「考古学少年団」を結成しました。

考古学少年団は、考古学に興味のある小学（初等科）6年生～中学3年生（義務教育学校9年生）を対象に、団員登録の上、考古学や日本史についてより踏み込んだ講義や体験を提供し、富山の遺跡・出土品や歴史を、考古学の専門家の指導で楽しく学びます。そして、子どもたちの考古学に関する興味・関心、文化財の保存と活用についての意識を高め、次世代の考古学者や埋蔵文化財保護の担い手の発掘と育成を図ることを目的に活動しています。

年間を通しての活動内容は、当センターでの講義や体験が主となります。

### 令和3年度の活動

#### 第1回 12月19日(日)

第1回では結団式が行われ、団長(当センター所長)より、団員一人一人に団員手帳が手渡されました。

講義では、富山県の考古学や当センターのあゆみについて学びました。また、「縄文土器、どっちが古いかクイズ」では、本物の縄文土器を見て触れて、土器の新旧を推理しました。子どもたちは、1万年以上も続く縄文時代の各時期を通しての形や文様の変化、多彩さを感じることができました。



結団式



縄文土器、どっちが古いかクイズ

#### 第2回 1月23日(日)

第2回のテーマは、「歴史とは」です。講義や自分史年表作りでは、歴史を学ぶ意味を学ぶとともに、自分が歴史の中でどのような位置にいるか感じる事ができました。

また、発掘調査ではいろいろな時期の土器が混ざって出てくる場合があるので、土器を鑑定し分析する能力が必要です。そこで「縄文土器 VS 弥生土器」と題して、縄文土器と弥生土器を観察してその違いを分析したり、土器の破片がどの器種のどの部位かを分析したりする体験を行いました。



自分史年表作り



縄文土器 VS 弥生土器

#### 第3回 2月13日(日)

新型コロナウイルス感染症拡大のため中止。

#### 第4回 2月27日(日)

新型コロナウイルス感染症拡大のため中止。

#### 第5回 3月6日(日)

新型コロナウイルス感染症のため、活動の日程や内容の変更を行いながら実施することになりましたが、子どもたちの学びの意欲は変わりませんでした。

講義「発掘調査の流れと報告書」では、実際に出土した土器に触れながら、発掘調査の流れと調査報告書の見方を学習しました。また、「月・太陽に関する考古学のあれこれ」では、月の満ち欠けのしくみと太陽暦・太陰暦、歴史書に登場する日食等について学習しました。



講義「発掘調査の流れと報告書」



講義「月・太陽に関する考古学のあれこれ」

#### 第6回 3月27日(日)

第6回のテーマは「現地踏査」です。当センター近くの遺跡を訪ねました。北代遺跡では、<sup>またたい</sup>竪穴住居の屋根が土葺きだったことや、<sup>しじみがもじ</sup>蛭ヶ森貝塚には今でもシジミが落ちていることは、子どもたちには驚きだったようです。また、小竹貝塚では現地の案内看板で概要などを

学びました。



現地踏査 (北代遺跡)



現地踏査 (蛭ヶ森貝塚)



現地踏査 (小竹貝塚)

## 令和4年度の活動

### 第1回 4月29日(祝・金)

第1回のテーマは「発掘調査1(発掘作業編)」です。発掘現場で書く図面や平板測量について講義で学んだ後、実際に現場と同じやり方で図面を書いてみました。この日はあいにくの雨で、室内での測量になりましたが、子どもたちは熱心に取り組んでいました。



平板測量体験

### 第2回 5月22日(日)

第2回のテーマは、「発掘調査2(遺物整理編)」です。東黒牧上野遺跡(富山

市)から出土した縄文土器を使い、出土した場所が近い土器片の焼き色や文様を見ながら組み合わせ、接合する体験をしました。とても大変な作業ですが、子どもたちからは「パズルのようで楽しい。」「ぴったりはまると気持ちが良い。」などの声が上がっていました。



遺物整理体験

### 第3回 6月19日(日)

第3回のテーマは、「発掘調査3(報告書編)」です。講義で土器の実測について学んだ後、縄文土器の破片を実測して図面化したり、墨で文様を写して拓本を作ったりする体験をしました。出来上がった拓本は葉に加工しました。



土器の実測体験



土器の拓本作り

## 古代の植物栽培

今年度は、通年で「古代の植物栽培」と題して、綿花の栽培に取り組んでいます。今後、収穫した綿花を使って、古代の綿打ち・糸紡ぎ体験を行う予定です。



綿花の種まき



綿花の植え付け

## 終わりに

考古学を学んでみたい方、日本の歴史を深く理解したい方、本物の土器や石器に触れてみたい方、「考古学少年団」の団員になってみませんか。

団員は随時募集しており、応募のしめ切りはありません。

富山県内の小学6年生から中学3年生までならどなたでも参加できます。

興味のある方は、お気軽に当センターへお問い合わせください。

(善徳 甚樹)



# 埋文 あらかると

## 博物館実習 14歳の挑戦

### 博物館実習

博物館実習は、学芸員資格の取得を目指す学生に対して行う実地研修です。毎年、当センターでは、博物館に関する人材育成や博物館活動の普及を目的として、地元の大学生を中心に実習生を受け入れています。今年度は、7月26日(火)～8月4日(木)の期間のうち8日間、5名の学生を対象として実施しました。



実習内容は、当センターのホール展示の企画及び実践、夏休み親子体験教室の指導、特別展のポスター・チラシ案と展示学習教材案の作成など、多岐にわたります。

展示の実践では、ホール設置のケース内展示について、企画立案から解説パネル・キャプション作成、出土品展示までを実際に行いました。

体験教室は県内小学4～6年生の親子を対象とした夏休み企画で、「刀鍛冶の体験をしよう」「古代の鏡の鑄造を体験しよう」2コースの指導を行いました。指導案の作成や実践を通じて体験内容の理解を深め、子ども達に楽しく学んでもらうための声掛けや注意等についても学びました。



また秋の特別展で使用するポスター・チラシや展示学習教材についても意見を出し合い、素案を作り上げました。展示の目的や意図を理解し、それに沿った内容となるよう努力しました。これらの成果は特別展で披露される予定です。ぜひご覧ください。

また、来年度の実習実施要項は、1月にホームページ上で公開する予定です。

(朝田 亜紀子)

### 14歳の挑戦

富山県では、平成11年度から「社会に学ぶ『14歳の挑戦』」を行っています。この活動は、中学2年生が5日間(当センターでは今年度は3日間)、学校外で職場体験活動や福祉・ボランティア活動等に参加することにより、規範意識や社会性を高め、将来の自分の生き方を考えるなど、生涯にわたってたくましく生き抜く力を身に付けることをねらいとしています。コロナ禍のため



2年間は実施されませんでした。今年度は富山市内の中学校から4名の生徒を受け入れました。

活動では、館内外の清掃や体験道具のメンテナンス、土器の片付け、来館学習補助等に取り組みました。利用者の立場で施設美化や各体験道具の作成・修繕に取り組むことができました。

2日目、3日目には、来館学習補助を行いました。火起こし体験やまが玉作り体験の準備や片付けのほか、来館した小学6年生を相手に体験活動のアドバイスをしました。初めは不慣れなために、声をかけることができずに立ち尽くす時間が多くありましたが、徐々に慣れて進んで声かけができるようになりました。その様子を見ると、どのような言い方をすれば分かってもらえるのか、



どのような接し方をすれば耳を傾けてもらえるのかを自ら考え、実践することができたようでした。

後日、生徒から届いた礼状には「仕事の難しさや大変さを実感したが、それ以上にやりがいや人の役に立つ喜びを感じることができた」と書かれています。短い期間でしたが、生徒たちにとって大変意義深い活動になったことをうれしく感じました。

(松嶋 隆徳)

## 「金属から見る富山の歴史

～こがね・しろがね・あかがね・くろがね・あおがね～

令和4年度 特別展

### 金属から見る富山の歴史

こがね・しろがね・あかがね・くろがね・あおがね

令和4年 10/7 金  
令和5年 1/26 木

入館無料

開館時間 9:00~17:00  
休館日 金曜日・12月28日・1月4日

錫 (Sn) 銅 (Cu) 金 (Au) 銀 (Ag) 鉄 (Fe)

MAKE TOYAMA STYLE BEYOND CORONA WITH US 富山県

考古学の博物館 富山県埋蔵文化財センター  
〒930-0115 富山市茶屋町206-3  
TEL 076-434-2814 / FAX 076-434-2859

高岡市板谷古墳群金環 高岡市朝野大塚遺跡鉄瓶  
高岡市・小矢部市石名田木舟遺跡鍍金具 射水市間山遺跡鉄短剣  
上市町中小泉遺跡小型仿製鏡 立山町別山山頂遺跡銅製仏頭

### 五金 こがね(金)・しろがね(銀)・あかがね(銅) くるがね(鉄)・あおがね(錫)

私たちが使っている道具は、どのような金属がもたらされ、今に至っているのでしょうか。本展示では、旧石器時代から近現代までの出土品を通して、金属との出会いから金属加工の技術など金属をめぐる本県の歴史を紹介します。

#### 第1章 金属との出会い

私たちは、弥生時代に銅と錫の合金である青銅器や鉄器に出会い、金属を祭祀や権威を示すモノ、武器・馬具などの利器として活用するようになりました。富山県では、弥生時代後期に射水市間山遺跡の鉄短剣や上市町中小泉遺跡の小型仿製鏡といった金属器が出土しています。

#### 第2章 色々な金属製品

**展示の構成**

- 生活用具  
鉄瓶、匙、鉄...
- 装身具  
金環、銀環、かんざし...
- 武具・馬具  
鉄、刀、挂甲...
- 農具  
鋤、鎌、金鋸、釘...
- 信仰用具  
鏡、仏頭、罌口...
- 銭貨  
和同開珎、六道銭...

富山市古倉B遺跡鉄 高岡市朝野遺跡和同開珎 高岡市・小矢部市石名田木舟遺跡銅刀、刀筥 富山県立佐野遺跡銅 陶器市川原遺跡金環

#### 第3章 加工の技術

金属を取り出し、加工し、思い通りのカタチにするには、高度な技術が必要です。金属を叩いて成形する鍛造や、金属を溶かして鋳型に流し込む鋳造などの技術があります。

#### 記念講演

「古墳時代の軍事と外交」  
講師：田中 晋作 氏 (山口大学客員教授)  
日時：令和4年10月23日(日)13:30~  
場所：当センター会議室

「製鉄遺跡が語るもの」  
講師：関 清 氏 (元富山県埋蔵文化財センター所長)  
日時：令和4年12月11日(日)13:30~  
場所：当センター会議室

※講題は変更することがあります。 ※マスクの着用、アルコールによる消毒等、新型コロナウイルス感染症拡大防止へのご協力をお願いします。 ※新型コロナウイルス感染症拡大状況によって入場制限が予定を要変更することがあります。あらかじめご了承ください。

富山県埋蔵文化財センター  
〒930-0115 富山市茶屋町206-3  
TEL 076-434-2814 FAX 076-434-2859

富山県立佐野遺跡 富山県立佐野遺跡 富山県立佐野遺跡

## 記念講演

令和4年10月23日(日) 13:30~

### 古墳時代の軍事と外交

- 講師 田中 晋作 氏 (山口大学客員教授)
- 会場 当センター会議室

令和4年12月11日(日) 13:30~

### 製鉄遺跡が語るもの

- 講師 関 清 氏 (元 当センター所長)
- 会場 当センター会議室

# 古写真発掘!—《14》



## ふた づか 二ツ塚遺跡（立山町指定史跡）

昭和51年（1976年）撮影 立山町二ツ塚

二ツ塚遺跡は、主に縄文時代中期～後期の遺跡で、常願寺川扇状地の末端部にある標高21～25mの微高地上にあります。

遺跡は、昭和33（1958年）年に発見され、昭和39（1964年）年には「二ツ塚原始住居遺跡」という名称で一部が町指定史跡になっています。

この時期に盛んだったほ場整備事業のため、指定範囲以外を事前に緊急発掘調査をすることとなり、調査の結果、多くの石組炉を持つ住居跡が見つかったほか、豊富な縄文土器、土偶、玉類などが見つかりました。

上の写真は、第21号住居跡の写真です、住居の一角に大きな石棒が置かれており、特別なイエだったと思われます。下の写真は、発掘調査の風景です。升目に区切って土層を観察しながら調査を進めているところですが、この頃の発掘調査は、このように細かく土層観察の壁を残していたことがわかります。

写真の土器は、文様と形がとても美しく、多くの方に紹介したい土器の一つです。大きな土器で、高さは最も高いところで49cmになります。



二ツ塚遺跡出土縄文土器

### 編集後記

読書の秋、スポーツの秋、食欲の秋……。皆さんはどんな秋を堪能されていますか。当センターで10月から開催の特別展「金属から見る富山の歴史～こがね・しろがね・あかがね・くろがね・あおがね～」で、「考古学の秋」もご堪能下されば幸いです。ご来館をお待ちしています。（担当 善徳）

### 富山県埋蔵文化財センターニュース「埋文とやま」VOL.160

令和4年9月30日発行 編集／富山県埋蔵文化財センター 〒930-0115 富山市茶屋町206-3 TEL076-434-2814  
URL <https://www.pref.toyama.jp/3041/miryokukankou/bunka/bunkazai/maibun/index.html>

